

平成21年度 業務実績報告書

平成22年 6 月

公立大学法人九州歯科大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人九州歯科大学
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目6番1号
設立の根拠となる法律名	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	19,679,209,480円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>大正 3年(1914)4月 私立九州歯科医学校(2年制)を創設</p> <p>10年(1921)4月 九州歯科医学専門学校(4年制)に昇格</p> <p>昭和19年(1944)4月 福岡県に移管、医学科を設置し福岡県立医学歯学専門学校に改称 (昭和22年4月医学科廃止)</p> <p>24年(1949)4月 九州歯科大学に昇格</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人九州歯科大学を設立</p>
法人の目標	<p>公立大学法人九州歯科大学では、豊かな人間性と探求心を育む歯科医学教育を学生に提供し、的確な判断力と高い技術力のもとより、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の健康管理が行える歯科医師及び歯科衛生士を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育: 歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 ・適性のある優秀な人材の確保・育成 ・教育の質の改善 ・学生への支援 2. 研究: 大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究水準並びに研究成果の向上 3. 社会貢献: 大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施 4. 業務運営: 理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・運営体制の改善 ・人事の適正化 5. 財務: 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自己収入の増加 ・経費の抑制 ・附属病院経営の改善 6. 評価: 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。 <ul style="list-style-type: none"> ・評価の充実 7. 情報公開: 情報公開を積極的に推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の公開等の推進

法人の業務	1. 九州歯科大学を設置し、これを運営すること。 2. 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3. 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4. 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5. 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6. 前各号の業務に附随する業務を行うこと。
-------	--

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数値は、公立大学法人九州歯科大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また役員の数値は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	福田 仁一	4年(平成18年～平成22年3月31日)	九州歯科大学 学長
副理事長	志波 朋和	2年(平成20年～平成22年3月31日)	ホクシン(株)代表取締役副社長
常務理事(事務局長)	辛島 秀典	1年(平成21年～平成22年3月31日)	九州歯科大学 事務局長
理事(学外)	重瀬 雅敏	2年(平成20年～平成22年3月31日)	北九州商工会議所 会頭
理事(学外)	大家 重夫	2年(平成20年～平成22年3月31日)	久留米大学法学部特任教授
理事(学内)	西原 達次	2年(平成20年～平成22年3月31日)	歯学部長(感染分子生物学分野教授)
理事(学内)	鱒見 進一	2年(平成20年～平成22年3月31日)	附属病院長(顎口腔欠損再構築学分野教授)
監事	廣瀬 隆明	2年(平成20年～平成22年3月31日)	広瀬公認会計士事務所 所長
監事	配川 寿好	2年(平成20年～平成22年3月31日)	若戸法律事務所 弁護士

(2) 教員

		H18	H19	H20	H21	H22	H23
教員数	常勤(正規)	121人	119人	119人	116人		
	内訳						
	教授	22人	24人	23人	22人		
	助教授	19人	—	—	—	—	—
	准教授	—	16人	15人	16人		
	講師	18人	16人	16人	14人		
	助教	—	63人	65人	64人		
	助手	62人	人	人	人		
非常勤講師	128人	136人	134人	135人			
合計	249人	255人	253人	251人			

教員数増減の主な理由

常勤教員減の理由: 一部の分野における退職教員の補充を見合わせたことによる

(3)職員										
		H18	H19	H20	H21	H22	H23			
職員数	事務局長	1人	1人	1人	1人					
	正規職員	県派遣	66人	52人	52人	41人				
		プロパー	人	11人	11人	18人				
		他団体派遣	人	人	人	人				
		その他	人	人	人	人				
	計	66人	63人	63人	59人					
嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	49人	59人	57人	55人						
合計	116人	122人	121人	115人						
職員数増減の主な理由										
県派遣職員減の理由: 附属病院における県派遣看護師の転出及び技術職員の退職、会計・決算事務を業者に委託したことによる事務職員の減による										
(4)法人の組織構成										
歯学部、附属病院、附属図書館、大学院歯学研究科、事務局										
3. 学生に関する情報										
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定数充足率の推移 (%)					
					H18	H19	H20	H21	H22	H23
大学	計	690人	652人	94%	95	96	95	94		
内訳	歯学部	人	人	%						
	歯学科	570人	568人	100%	103	103	101	100		
	大学院 歯学研究科	人	人	%						
〇〇	計	人	人	%						
内訳	〇〇学部	人	人	%						
	〇〇学科	人	人	%						
	〇〇学科	人	人	%						
	大学院 〇〇研究科	人	人	%						
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										
歯学部歯学科が100%未満の理由: 年度途中で退学した学生がいたため 大学院が90%以下の理由: 平成18年度から歯科医師臨床研修制度が開始され、入学生が6名に留まったため										

4. 審議機関情報				
(1)経営協議会				
区分	氏名	任期	現職	
理事長	福田 仁一	平成18年4月1日～平成22年3月31日	公立大学法人九州歯科大学理事長	
副理事長	志波 朋和	平成20年4月1日～平成22年3月31日	公立大学法人九州歯科大学副理事長	
学外委員	秋山 治夫	平成20年4月1日～平成22年3月31日	福岡県歯科医師会会長	
	岡野 正敏	平成20年4月1日～平成22年3月31日	岡野パルプ(株)代表取締役社長	
	北橋 健治	平成20年4月1日～平成22年3月31日	北九州市長	
	田中 浩二	平成20年4月1日～平成22年3月31日	JR九州(株)相談役	
	信友 浩一	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州大学大学院医学研究院教授	
	吉村 俊治	平成21年4月1日～平成22年3月31日	福岡県立小倉高校校長	
	松本 健司	平成20年4月1日～平成22年3月31日	松本健司税理士事務所所長税理士	
(2)教育研究協議会				
区分	氏名	任期	現職	
学長(理事長)	福田 仁一	平成18年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学 学長	
学部長	西原 達次	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学 歯学部長	
学内組織の長	辛島 秀典	平成21年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学 事務局長	
	鱒見 進一	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学 附属病院長	
	高田 豊	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学 附属図書館長	
	稲永 清敏	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学大学院歯学研究科長	

項目別の状況(年度計画項目)

項目	実施事項	平成21年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
		1-1	2	1	1		中期	年度	理由		中期	年度
1	【コミュニケーション能力、倫理観、探求心の育成】 ①患者の痛みを理解し、意思疎通ができる能力を養成するため医療行動学をはじめ、心理学、哲学などの素養教育を充実する。 ②高い倫理観を持った歯科医師を育成するため、医の倫理を主とした倫理学といった素養教育を充実する。 ③学生が主体的・能動的に学習し、探求心を身につけるためチュートリアル教育を充実する。	1-1	【平成21年度計画】 ○素養教育の一層の充実につとめ、選択科目を精選し、学生の学習意欲を高めるカリキュラムを作成する。 ・21年度は、一般教育系教員にFD活動を通じて、「歯科大学における素養教育の在り方」を提示する。 ・26科目に増加した選択科目の内容を充実させ、学生の学習意欲を高める。 ○数値目標 ・学生の成績 良以上 60%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上	1	1	【平成21年度の実施状況】 ○素養教育担当教員に対して、FDを通じて、教育法の改善を求めた、選択科目の非常勤講師に対しても、学部長が大学の教育方針を説明し理解を求め、歯科医学に興味を感じるような内容を組み込んだ。 その結果、学生満足度が1, 2年次選択科目で0.25アップ(H20年度実績:3.36 →H21年度実績:3.61)した。 選択科目の中で、歯科医学につながる素養科目を充実させた。 ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績 目標 今期実績 ・学生の成績 良以上60%以上 73.3% ・学生による授業評価 4以上60%以上 37.5% ・個人業績評価 B以上80%以上 33.3% ○同僚による授業評価 平均 4.17 (満点5.0点)			FDを行い歯学部が歯科への興味を抱くような素養教育に改編したことにより学生の授業満足度が上昇した。			1
2	【歯科医師として備えるべき基礎的知識に関する教育の徹底】 学生が確実に知識および技術を身につけられるよう、教育方法の工夫・改善を行う。	2	【平成21年度計画】 ○歯科基礎教育において統合化された授業の内容の充実に努める。 ・一般基礎医学および歯科基礎医学の教育内容について、相互に意見交換を行い、基礎と臨床の一体となった問題解決型チュートリアル教育を行う。 ○数値目標 ・今後の共用試験CBT得点率70%以上を目指す。 ・学生の成績 良以上 60%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上	1	1	【平成21年度の実施状況】 ○3年次「感染と免疫Ⅲ」及び「感染と免疫Ⅳ」において、微生物学、薬理学、予防歯科学、内科学を軸として、感染症に関するチュートリアル教育(4単位)を行った。 ○数値目標 ・共用試験CBT 得点率:75.8%(全国29大学平均72.0%) このうち、「感染と免疫」得点率 78.0%(全国29大学平均72.1%) ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績 目標 今期実績 ・学生の成績 良60%以上 66.2% ・学生授業評価 4以上60%以上 35% ・個人業績評価 B以上80%以上 47.6% ・同僚による授業評価 4.42			基礎教育と臨床教育が一体となったチュートリアルの成果が出て、チュートリアル教育を導入した科目で74%→78%と共用試験CBTの成績が向上した。			2
3		3	【平成21年度計画】			【平成21年度の実施状況】						

中期計画		平成21年度計画	ウエイト 中期 年度	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し番号												
項目	実施事項				中期	年度		理由	中期	年度										
	<p>【的確な判断能力、治療技術力の育成】</p> <p>①豊富な事例を通して、患者の訴えや症状から、疾病原因の正確な診断や最適な治療方法を見出すことのできる能力を身につけさせる。</p> <p>②臨床実習において、技術力や診断能力が身につけているか厳格に評価する。</p> <p>③歯科臨床に対する高い意識と研究心を養うため、研究室配属を5年生すべてを対象に行う。</p> <p>④医療に携わる者としての使命感を育成するため、口腔保健活動や救急車同乗実習などを充実させる。</p> <p>⑤医療経営および社会保険制度に関する教育を充実させる。</p>	<p>○臨床教育全体を見直し、系統的な再編に取り組む。</p> <p>・細分化していた病院臨床実習を一部統合した「統合教育ユニット」により質の高い参加型実習(5, 6年次)を行なう。</p> <p>・的確な診断・治療技術を取得させるために、学部教育(3, 4年次)に臨床基礎教育の充実を進める。</p> <p>・臨床基礎実習において、AVコンテンツの稼働率を40%とする。</p> <p>・OSCE(客観的臨床能力試験)100%合格を継続する。</p> <p>○数値目標</p> <p>・学生の成績 良以上 80%以上</p> <p>・学生による授業評価 4以上 60%以上</p> <p>・個人業績評価 B以上 80%以上</p>	2	<p>○5～6年次生における病院臨床を統合化し、臨床実習における参加型実習の割合を10%向上(H20年:40% →H21年:50%)させた。5, 6年次生の統合型臨床実習を充実させ、「総合歯科外来」では、全ての学生が参加型実習を行える体制を整えた。</p> <p>○3, 4年次の実習システムを統合化し、新たに作成したAVコンテンツ(実習書をモニター画面上で供覧できるシステム)を用いて臨床基礎実習教育を充実し、使用率が50%に達した。</p> <p>○OSCE合格率:100%を維持した。</p> <p>○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>今期実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・学生の成績</td> <td>良以上 80%以上</td> <td>74.7%</td> </tr> <tr> <td>・学生授業評価</td> <td>4以上60%以上</td> <td>28.4%</td> </tr> <tr> <td>・個人業績評価</td> <td>B以上80%以上</td> <td>47.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○同僚による授業評価 平均 4.42</p>		目標	今期実績	・学生の成績	良以上 80%以上	74.7%	・学生授業評価	4以上60%以上	28.4%	・個人業績評価	B以上80%以上	47.6%	A	臨床実習を「総合型実習」と「専門外来での実習」に大別し、総合型実習において参加型実習体制を確立し、全学生が参加型実習を行ったので、年度計画を上回った。		3
	目標	今期実績																		
・学生の成績	良以上 80%以上	74.7%																		
・学生授業評価	4以上60%以上	28.4%																		
・個人業績評価	B以上80%以上	47.6%																		
4	<p>【専門医療、高度先進医療を行える人材の育成】</p> <p>①高齢者、要介護者の口腔ケアや摂食:嚥下指導のため医療人を育成し、摂食機能リハビリテーション分野を充実させる。</p> <p>②高度な専門性を持ち、先端医療を担える医療人の育成を行うために歯科矯正科、歯周病科、口腔外科等の専門診療部門の教育内容を継続的に見直す。</p>	<p>4【平成21年度計画】</p> <p>○附属病院臨床実習書に基づき、臨床実習システムで参加型の比率を高める。</p> <p>・専門外来ユニットにおける臨床実習(見学主体)で、多くの症例を経験させる。</p> <p>○数値目標</p> <p>・学生の成績 良以上 60%以上</p> <p>・学生による授業評価 4以上 60%以上</p> <p>・個人業績評価 B以上 80%以上</p>	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○統合型臨床実習における専門医療及び先進医療に関する臨床実習を10%(H20年:40% →H21年:50%)増加させ、口腔ガン、顎骨骨折、外科的歯科矯正などを附属病院病棟や手術室で見学する機会を増やした。</p> <p>○専門外来における臨床実習においてポートフォリオ(学生が自身で学習達成度を記録して教員と相談し自己管理できるシステム)を60%(H20年:40%)の診療科で活用し、そこで得た学習達成度ファイルを分析した。</p> <p>○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>今期実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・学生の成績</td> <td>良60%以上</td> <td>74.7%</td> </tr> <tr> <td>・学生授業評価</td> <td>4以上60%以上</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>・個人業績評価</td> <td>B以上80%以上</td> <td>47.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○同僚による授業評価 平均 3.86</p>		目標	今期実績	・学生の成績	良60%以上	74.7%	・学生授業評価	4以上60%以上	100%	・個人業績評価	B以上80%以上	47.8%	A	歯科臨床教育にポートフォリオを導入している歯科大学は少なく(岡山大学での報告のみ)、歯科医学教育学的にも斬新な試みである。		4
	目標	今期実績																		
・学生の成績	良60%以上	74.7%																		
・学生授業評価	4以上60%以上	100%																		
・個人業績評価	B以上80%以上	47.8%																		
5	<p>【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】</p> <p>①各科目の到達目標と成績評価基準をシラバスに明示し、厳格な成績評価を行う。</p> <p>②科目間で整合性のある成績評価方法を検討する。</p>	<p>5【平成21年度計画】</p> <p>○シラバスに明確な評価基準および到達目標を明示し、学生が歯学教育の流れを理解できたかどうか検証する。</p> <p>・平成21年度FDワークショップで教員全員出席のもと教育意識の向上を図る。</p> <p>・学生に歯科医師になるための行動計画を立てさせ、自覚を促す。</p> <p>・成績表の父兄への送付と保護者説明会の開催する。</p> <p>○数値目標</p> <p>・学生の成績 良以上 60%以上</p>	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○シラバスには明確な評価基準および到達目標を明示した。さらに、シラバスにモデル・コアカリキュラムに準じた教育で習得できる範囲を明示したことで、個々の科目と歯学モデル・コアカリキュラムの対応を分かりやすくした。さらに学年主任と副任を各学年に配置し、学生の修学状況を把握する体制を構築した。</p> <p>○21年度FDワークショップには全教員が参加し、活発な意見交換を行った。</p> <p>○2年次・3年次の「歯科医師入門学」で学生に行動計画表を提出させた。</p> <p>○1～6年次生全学生及び保護者に成績表を送付した。その中で精神的に不安定な学生及び成績不振学生の保護者に通知し、東京と北九州で保護者説明会を開催した。</p> <p>○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>今期実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・学生の成績</td> <td>良60%以上</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>・学生授業評価</td> <td>4以上60%以上</td> <td>32.2%</td> </tr> <tr> <td>・個人業績評価</td> <td>B以上80%以上</td> <td>46.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○同僚による授業評価 平均 4.03</p>		目標	今期実績	・学生の成績	良60%以上	70%	・学生授業評価	4以上60%以上	32.2%	・個人業績評価	B以上80%以上	46.1%	A	歯科医師になるまでの教育体系を説明し、成績評価を開示し、必要に応じて保護者説明会で成績不振の理由などを説明した。		5
	目標	今期実績																		
・学生の成績	良60%以上	70%																		
・学生授業評価	4以上60%以上	32.2%																		
・個人業績評価	B以上80%以上	46.1%																		
6	<p>【教育の成果・効果の検証】</p> <p>①全国の歯学部で行われている共用試験(「OSCE」、「CBT」)を成績評価の対象とする。</p> <p>②国家試験の合格率を上げるため、入学試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、入試、教育方法、成績評価基準などの見直しにつながるシステムを作り、常に検証していく。</p>	<p>6-1【平成21年度計画】</p> <p>1【共用試験】</p> <p>○共用試験結果を解析し、データを開示し、成績不振科目を中心に改善を進める。</p> <p>・これまで蓄積してきたデータを解析し、弱点科目を克服するために、教務部会を軸に組織対応する。</p>	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○共用試験(CBT, OSCE)のデータを学生に返却し、弱点を明示して、不得意科目を克服できるようにし、修学意欲を向上させた。さらに、担当教員に対しても担当科目の平均点を明示し、全国平均点と比較検討させ教育効果という視点でシラバスの改善を求めた。</p> <p>○教務部会で共用試験データを分析し、FDワークショップで本学の教育における弱点について意見交換し、統合型に向けての教育連携の必要性を示した。</p> <p>○講義に、臨床症例画像を多く取り入れて治療方法などがわかりやすい授業を行った。</p>	A	学生自身が不得意科目の克服の方法を知る機会を作ることができた。一方で教員も学生の弱点を知り、それを克服する方法をFDを通じて取得した。		6												

中期計画		平成21年度計画	ウエイト 中期 年度	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し番号	
項目	実施事項				中期	年度		理由	中期
		6-2 【教育効果の検証】 ○構築した成績管理システムの精度を向上させ、以下の目標設定達成を目指す。 ・学生の成績「良」以上が70%以上 ・学生による授業評価「4」以上が50%以上 ・共用試験全員合格 ・GPA(平均的能力を評価する制度)を活用した成績通知書に改編し、就学指導及び保護者説明会で利用する。	1	○GPAを活用した成績通知書を全保護者に配付するとともに、東京及び北九州で保護者説明会を行った。 ○数値目標 ・学生の成績「良」以上 70.0% ・学生による授業評価「4」以上 32.2%(前年度に比べて1.95%低下) ・共用試験 181名合格(全員数 183名)※4年次生(H22年2月実施)、5年次生(H21年6月実施) ・昨年度に導入したGPAを活用し、学生への成績開示を行った。 ・同僚による授業評価 平均 4.03と高い値を示した。	B	GPAを導入し、今年度から成績不振及び精神・身体的に不調な学生を対象とした保護者説明会を行ったことで年度計画を概ね達成した。		7	
		6-3 【国家試験の合格率アップ】 ○国家試験の結果を解析し、教育カリキュラムを改編する。 ・第102回歯科医師国家試験(平成21年実施)不合格者および第103回歯科医師国家試験(平成22年)受験予定者の国家試験対策に、教員がチューターとして関わり不得意科目克服に向けて個人的指導を行なう。さらに既卒不合格者に附属病院実習に参加できる体制を整えるとともに、歯科医師として社会に貢献するという意識向上のために講演会などを開催する。 ・事務局による学生管理システムを強化することで、不合格者の成績不振科目を分析する。 ・国家試験合格率全国第10位以内を目指す。	2	○6年次生および既卒不合格者における国家試験対策を充実させた。 ・6年次生の卒業試験の成績を厳正に評価した。 ・6年次生臨床実習において、患者症例を用いた教育を国家試験に即した形にした。(カンファレンス、レポート提出重視) ・チューターが10名単位で学生の国家試験模擬テスト成績を分析し、教育に反映させた。 ・希望する既卒不合格者に附属病院で診療を見学させた。 ・既卒不合格者に対して、歯科を取り巻く環境などについて講演会を開催した。 ・既卒不合格者に対しては、事務局が定期的に連絡するシステムを構築した。 ・38名の既卒不合格者のうち18名は、本学で1年間学習させ、そこに2名の教員を配置して指導した。 ・既卒不合格者が学習する教室や参考書などを用意し、インフラ面でもサポートした。 ○今年度の国家試験結果 新卒者:93.2%(全国7位) 既卒者:63.9%(全国9位) 総合:84.7%(全国10位)	A+	国家試験対策に重点的に取り組んだ結果、大幅に順位を上げた。その中で、本学で学習した18名の既卒不合格者が全員合格した。	9	8	
7	【アドミッションポリシーを重視した入学選抜試験の実施】 アドミッションポリシーを明確にしてAO入試や特待生入試など優秀な学生を確保するための入試を導入する。	7-1 【平成21年度計画】 1【アドミッションポリシーの周知度】 ○平成19年度に開示したアドミッションポリシーの周知度を、HPや高校訪問などで向上させる。 ・AO入試:志願倍率 5.0倍 受験倍率 3.0倍 辞退率 0% ・一般入試:志願倍率 5.0倍 受験倍率 5.0倍 辞退率 5% ・センターランク 83%以上	1	【平成21年度の実施状況】 ○H21年度の高校訪問では、歯学科に加え、口腔保健学科の説明を行った。 ○数値目標 【歯学科】 ・AO入試の受験倍率 5.0倍 辞退率 0% ・一般入試の受験倍率 3.28倍 辞退率 11% ・センターランク 83% ・歯学科一般入試の志願者倍率4.37倍の高さは全国29大学中第2位であった。 【口腔保健学科】 ・一般入試の受験倍率 1.38倍 辞退率 28%	B	全国的に歯科大学29大学中11大学が入学定員割れをしている現状を考えると、本学においては、29大学中第2位ということで、概ね年度計画を達成できた。	1	9	
		7-2 【AO入試の実施】 ○平成20年度からのAO入試の経験をふまえ、更に改善した運営を円滑に実施する体制を整備する。 ・AO入試で合格した在学生のデータを学教務システムに登録し、今後の進路調査を行う。 ・FDを通して AO入試に対する教職員の意識向上を図る。	2	○アドミッションポリシーに従い、厳正なAO入試(H21.11月実施)を行い、10名の合格者を得た。募集定員は17名であったが適正な入試合否判定を行い、求める学生に合致した学生を選抜した。 ○AO入試開始2年目となり、昨年から学年成績を学教務システムを用いてデータの収集を開始した。 ○AO入試に関連したFDを開始し、教員へのアドミッションポリシーの周知徹底を図った。 ○今年度AO入試も含めて、入試方法別に成績をフォローする学教務システムを構築した。 ○FDでAO入試をテーマとして取り上げ、教員の意識を向上させ、アドミッションポリシーに沿った形で、AO入試の面接と集団討論の採点が行われた。	B	年度計画を十分に達成した。	1	10	
8	【在校生対象の特待生制度等の導入】 ①ティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)制度を導入する。 ②現在の奨学金制度を充実させ、学生の経済的支援を図る。	8-1 【平成21年度計画】 【TAとRA制度】 ○優秀な大学院生を確保するためにティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)制度を活用する。 ・臨床研修医制度が本格実施されたH18年度に1年次生として受け入れられなかった学生を除く大学院充足率80%以上を目指す。	1	【平成21年度の実施状況】 ○OTAまたはRA制度を75.0%の大学院生が活用し、次世代を担う教育者・研究者として素養を培った。 ○H18年度入学生を除く大学院(80名)充足率 88.9%	B	TA・RA制度が活用され、教育者・研究者として高い志を持った学生を育成することができた。		11	
		8-2 【奨学金制度】 ○学生生活の経済的支援を図るために、各種奨学金制度の情報の収集に努め、学生に情報を提供する。 ・教員が永松奨学会の理事会・評議会活動に協力し、連携を強化して、奨学金の増額を求めていく。 ・現下の不況に鑑み、学生の経済的負担を軽減する対策について検討する。	1	○教員が永松奨学会の理事会・評議会の役員として協力し、永松奨学会の運営システムをきめ細やかに説明し、学生が奨学金を利用しやすい環境作りを行った。 ○昨今の経済不況を考慮し、理事長・副理事長・学内理事が学生の経済的負担軽減策を図るため協議したが、本年度中には具体的な方策を講じることはできなかった。	B	概ね年度計画を達成した。	13	12	
9		9-1 【平成21年度計画】		【平成21年度の実施状況】					

中期計画		平成21年度計画		ウエイト		計画の実施状況等		自己評価		データ	通し番号		
項目	実施事項			中期	年度			中期	年度	番号	中期	年度	
3. 教育の質の改善	【広報活動の充実】 ①オープンキャンパスの実施内容を改善する。 ②出前講義や高校訪問を実施する。 ③各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に積極的に参加する。		【オープンキャンパス】 ○オープンキャンパスの内容等を工夫し充実させる。 ・ポスター掲示などして、事業広報を積極的に行う。 ・オープンキャンパス参加者数 150名以上 ・オープンキャンパス参加者アンケート 評価「4」以上 80%以上		1	○ホームページなどでオープンキャンパスの広報活動に努めた結果、模擬講義受講数のリミットを想定して設定した当初の募集人員180名を越える参加者を得た。アンケート調査でも高い評価が得られたが、とくに模擬講義が好評であり、講義内容を高く評価する意見(たとえば、「興味深かった。」)が多かった。 ○数値目標 ・オープンキャンパス参加者数 192名 ・参加者アンケート 5段階評価で「4」以上 90%		A		7		13	
		9-2	【平成21年度計画】 【広報活動・出前講座・高校訪問・入試説明会】 ○さまざまなメディアとりわけHPを利用して広報活動を充実させる。 ・各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に参加する。 ・受験生や高校関係者に対する広報活動の充実させる。 ・本学の教育・研究・社会貢献のトピックスをメディアを用いて発信する。 ・出前講座・高校訪問・入試説明会を積極的に活動し、充実させる。 ・昨年度、受験者の少なかった福岡市の高校を重点に訪問するなどして志願者増へ働きかけるとともに、引き続き受験者の傾向を分析する。 ○数値目標 ・出前講座 2校以上 アンケート良好評価 60%以上 ・高校訪問 県内60校 県外40校 アンケート良好評価 80%以上 ・入試説明会 参加数 5回以上 アンケート良好評価 60%以上 ・一般入試 志願倍率5.0倍 受験倍率 5.0倍 ・AO入試 志願倍率5.0倍 受験倍率 3.0倍		1	【平成21年度の実施状況】 ○福岡や北九州で行われた大学説明会・入試説明会積極的に参加し大学のアピールに努めた。(9会場→11会場) ○今年度は、県内県外の有力高校を絞り込み、昨年より10校多く広報活動を行った。(県内49校、県外42校)また予備校16校に向いて広報活動を行った。 ○口腔保健学科の設置認可が11月となってしまい、募集要項を高校訪問時に提示できなかった。そこで学校訪問用として別途パンフレットを作成し、広報活動を積極的に行った。 ○県内の高校から出前講座の要請があり、「歯科医師の社会における役割」というタイトルで話をした。 ○福岡市の高校については、教員の出身校に派遣し本学の存在をアピールした。 ○数値目標 ・出前講座 1校実施 アンケート未実施 ・高校訪問 県内:49校 県外:42校 ・入試説明会 11回 アンケート未実施 歯学科 口腔保健学科 ・志願者数(倍率) 341名(4.37倍) 47名(1.88倍) ・受験者数(倍率) 308名(3.28倍) 44名(1.38倍) ・AO入試(倍率) 50名(5.0倍)		A		4 5 6		14	
		10	【教育活動の評価の実施及び任期制の導入】 ①学生による授業評価、同僚による授業評価を実施し、評価結果を個人業績評価に反映させる。 ②個人業績評価を実施し、評価結果の研究費配分や給与へ反映する。 ③任期制を導入する。	10-1	【平成21年度計画】 【学生・同僚による授業評価の導入】 ○教員の教育能力の検証のために、「学生による授業評価」、「同僚による授業評価」を導入したH20年度のデータを分析し、教員にフィードバックする。 ・「学生による授業評価」および「同僚による授業評価」を教育にフィードバックする。		1	【平成21年度の実施状況】 ○「同僚による授業評価」を全ての科目に本格導入して、「学生による授業評価」とも個人業績評価に反映させた。これをH21年度の学部長面談時に、全教員に数値を示して、改善方法について意見交換した。 ○「学生による授業評価」及び「同僚による授業評価」の結果を各教員に示し、次期のシラバスに反映させた。		B			15
			10-2	【個人業績評価の研究費と給与への反映】 ○平成19年度の実施の経験を踏まえ、給与反映方式に改善する。 ・平成20年度に開始した優れた評価結果に報いる本学らしい(特別賞)支給方式の更なる拡充を図る。 ・前年度実績を評価した教員に対して研究費を反映させる。		1	○評価結果を給与配分に反映させるシステム「特別賞」(評価点数の総合平均点以上の者で、前年度に比べ評価点向上した教員に上乘せ支給する。)に加え、法人・大学に特に貢献した活動を実施した教員に与える特別賞を新設した。今年度は、先進医療(インプラント、歯周病)の認可に尽力した教員など6名に特別賞を授与した。 ○実績を示す文書を提出させ前年度実績を踏まえた研究費配分を継続させた。		B				16
	10-3	【任期制の充実】 ○任期制導入後4年目となり、「任期制教員再任基準」の策定等制度運用上の環境整備を行い、その内容を公開する。 ・平成22年度に初めて行われる再任審査を前に再任に係る基準並びに審査方式等の周知に努める。 ・月給制承継教員に対して、期末に任期制同意の意向照会を引き続き実施する。		1	○平成21年4月の全学説明会で「任期制教員再任基準」を全教員に周知した。 ○今年度も任期制同意の意向照会を実施したが、7名の月給制承継教員から変更の意思表示はなかった。		B					17	
	11	11	【平成21年度計画】			【平成21年度の実施状況】							

中期計画		平成21年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	理由		中期	年度
4. 学生への 支援		【FDの推進】 教員の資質の向上を目指して企画・内容を精選し、効率的なFDを実施する。		2	○今年度は学生に関わる諸問題を中心に10回のFD活動を行い、そのうち6回の参加率は100%に達した。10回平均しても98%の参加率が得られた。 ○休日に2回のFDワークショップ(6月14日、12月19日)を開催し、教育手法についての情報を提供し、教育へのフィードバックを図った。		B	休日であるにもかかわらずワークショップの参加率は100%に達し、概ね年度計画を達成した。	11		18
	12	【学習相談・助言・支援の組織的対応】 学生にITアカウントを与え、学習についての相談や教育・教務関連情報の連絡に使用する。	12	1	【平成21年度の実施状況】 ○学内ネットを利用して授業資料プリントを配付するシステムの設計を行った。 ○「学生意見箱」(学生意見13件)での、出された意見を教職員で構成する部会で検討し、ホームページを通じて改善策を周知した。 ○学生ポータルを活用した授業が3つ増加(3→6)した。 ○図書館の利用については、休日の開館や利用時間の延長等で学生の利用者が大幅に増え、学生の満足度も上昇した。 ○講義室の管理システム改善し、放課後に学生の自習室として5室開放した。 ○今年度、健康管理室活動を充実させたことにより、定期健康診断受診率向上など学生の健康意識が高まった。		A	今年度は、カウンター業務を行う人員を確保し図書館の利用時間の延長、自習室の5室の開放など、学生の修学環境を改善した。その他にも学生の学習環境でのサポート体制が充実したのでAと評価した。			19
	13	【就職支援】 卒業・研修後の就職支援体制(リクルートシステム)を確立する。	13	1	【平成21年度の実施状況】 ○大学内ホームページで就職先を検索できるリクルートシステムの設計を終了した。しかし、現状では歯科大学ということから卒業時研修医として就職するケースがほとんどで、一般企業への就職検索の実績はない状況である。口腔保健学科における4年次生が卒業するH25年度には、活用できる予定で設計した。 ○新たに設置した口腔保健学科に関する事項をホームページに加え、リニューアルした。		B	概ね年度計画を達成した。	19		20

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

- 3 : 歯科教育コアカリキュラムに沿った教育システムの充実を重点目標と位置づけしており、新しい臨床基礎実習をより実践的かつ有効なものにする。
6-3 : 昨年の国家試験の合格率が低下したことを受けて、改めて試験体制を学部長を中心に組織を作り上位合格の目標の達成を目指す。
7-2 : 平成21年度入試からAO入試の経験を生かし平成22年度入試をより充実させ、歯科医師として適正な人材の確保を目指す。
11 : 平成21年度、FDプログラムを充実させ、教員の意識と教育手法の向上を重点目標とする。

教育に関する特記事項(平成18~20年度)

① ...

(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】	【意見・コメント等】		
-----------------------------	------------	--	--

教育に関する特記事項(平成21年度)

- ① H21年度から九州工業大学・九州歯科大学大学院連携を開始した。九州歯科大学から5名、九州工業大学が12名の大学院生が単位互換制度を活用した。
②上記歯工学連携事業の一貫として、日韓教育研究連携に向けて、H21年11月、韓国ソウル国立大学歯学部とのシンポジウムを開催し、国際的視野を広める大学院教育を展開した。

(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】	【意見・コメント等】		
-----------------------------	------------	--	--

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 2 研究	大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する」 1 研究水準並びに研究成果の向上		平成21年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番号	通し番号	
	項目	実施事項	1	2	中期	年度		中期	年度	理由		中期	年度
		【大学の方針に沿った研究に対する適正な研究者の配置・研究費の配分】 ①大学の方針に沿った研究に対する適正な研究者の配置・研究費の配分 ②研究の事後評価・検証システムの構築・実施 ③外部研究資金の獲得 ④産学官連携の推進	1	2		1	【平成21年度の実施状況】 ○研究企画書に基づいた研究費配分時に、義務付けた実績評価書を検証して、研究費配分に反映させた。 ○学長研究費の割合は32.1%となり、目標を上回って実施できた。そのうち若手研究者3名について、意欲を高めるために研究費を配分した。 ○大学院生 84名に5万円→10万円を配分し、さらに研究生2名、専修生 18名に対して研究費を配分した。		A	これまで均一に配分していた研究費を研究企画書に加えて実績評価を査定するというシステムを構築し、大学として組織的に研究費配分するという新たな試みを開始した。			21
		【研究の事後評価・検証システムの構築・実施】 研究活動の評価・検証システムを確立して、研究者の意識を高めるとともに、毎年、各研究者の研究活動を公表することにより情報公開を実施する。	2	1		1	【平成21年度の実施状況】 ○個人業績評価時の資料等を用いて研究の実績評価を行った。 ○研究実績評価において、社会への貢献と歯科医学を支える研究という視点を重視した。 ○数値目標 ・論文数 81件(英文) ・学会発表数 21件(国際学会) ・特許・実用新案権件数 5件 ○全教員の研究成果をホームページで開示した。		A	数値目標をすべてで計画を上回って実施している。また外国雑誌の発表論文も質の高い歯科臨床に関するものが多く、大学の理念に即した研究が増加した。	20		22
		【外部研究資金の獲得】 研究資金を積極的に獲得する。	3	2		2	【平成21年度の実施状況】 ○事務局が研究費獲得のためにホームページを利用して、細やかな情報提供を行った。 ○数値目標 ・科学研究費 66件(11,501千円) ・受託研究費・共同研究費・奨学寄附金 23件(21,382千円) ・外部資金合計89件(132,883千円)		A	科学研究費、委託研究費等で数値目標の件数を大幅に上回って実施している。このなかで事務局が広報により外部研究費を獲得した事例が2件あった。	20		23
			4				【平成21年度の実施状況】						

<p>【産学官連携の推進】 歯学関連企業だけでなく、一般企業ならびに学内諸機関との交流を深め、歯学部得意分野を生かした連携を推進する。</p>	<p>○他分野にも注目される研究を展開して、福岡県内の産業に貢献する研究を展開する。 ・産学連携フェアへの積極的な参加 ・年間産学連携件数 5件以上 ・寄附講座の開設をめざしてスポンサー探しに引き続き取り組む</p>		1	<p>○産学連携フェアで1件の新技術を出展した。 ・G.U.I.(コンピュータの操作の対象が絵で表現されるシステム)による歯科ドック、口腔健康管理システムと設備管理システムの開発 ○年間産学連携件数 7件 (新規:3件 継続:4件) ○産学官連携が進み唾液の分泌量と性状を調べることのできる機器を開発した。 ○寄附講座開設可能な企業に関しては、歯周病診断キットを開発する会社と交渉を継続した。</p>		A	<p>年度計画以上に県内の産業、企業に役立つ研究成果をあげることができた。さらに、福岡 ISI及び FAISからの研究資金を2件獲得することができた。さらに、教員の産学連携の意識が高まり、連携件数7件、特許件数5件という形になって表れた。</p>	22	24
---	--	--	---	--	--	---	---	----	----

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

3：平成21年度は、産業の創生につながる研究を展開し、研究費を獲得するよう努める。

研究に関する特記事項(平成18～20年度)

研究に関する特記事項(平成21年度)

○ 本学の産学連携の研究成果が国際学会発表奨励賞と受賞した。

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 3 社会 貢献	「大学の保有する人材・知識・施設等を社会のために活用する」 1 地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施											
	①e-learningシステムを活用したリカレント教育の充実 ②歯科保健医療情報の提供 ③研究成果の地域への発信 ④アジア等を主眼に置いた国際貢献の実施 ⑤地域住民の健康増進のための保健プログラムの構築と活用											
	中期計画		平成21年度計画		ウェイト		計画の実施状況等		自己評価		データ番号	
項目	実施事項			中期	年度	中期	年度	理由		中期	年度	
	1	【e-learningシステムを活用したリカレント教育の充実】 g-learningシステムを使用して歯科医師、医療従事者対象のリカレント教育を行う。	1	【平成21年度計画】 ○「Q-shidaiゼミ」をリカレント教育素材として用い、良質なプログラムを発信する。 ・e-learning の後方支援事務体制を確立する。 ・「Q-shidaiゼミ」によるデモプログラム公開提供するとともに、利用者(一般の開業歯科医師、研修医)を把握(メール交信可能)するため「アンケート画面」を作成依頼する。 ・新規にコンテンツを4コース(10番組)を追加して合計20番組とし、デモプログラムを充実することでアクセス件数を増加させる。 利用者数 150人 内容に対する満足度 50%以上 ・e-learningを含むリカレント教育を企画する。		1	【平成21年度の実施状況】 ○H21年度は、歯周病・予防分野・インプラント分野を含む合計4番組のQ-shidaiゼミの収録を行った。H19年度から収録したコンテンツを合計すると14番組になり、H22年度には公開できる目処がたった。 ・e-learningの広報Q-shidaiゼミの満足度調査を行うためのアンケートページの作成を行った。H22年度に運用開始する。 ・H20年度後半からサービスを開始し、H21年度は初めて年間を通してサービスを行った。利用者数は3,877件であった。 ・歯科衛生士のリカレント教育としても運用することを検討している。 ・満足度調査用画面の作成は終了し、H22年運用を予定している。		B			25
	2	【歯科医療情報の提供】 ①ホームページによる歯科医療情報(診療科及び診療内容など)の提供を充実させる。 ②北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院として、診療所では対応困難な歯科医療、または診療情報を提供する。	2-1	【平成21年度計画】 ○北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院としての役割を担うために、診療所では対応困難な歯科医療や診療情報の提供を積極的に行う。 ・情報提供の一環として、病院歯科の診療内容、各種疾患の受け入れ状況、各病院への紹介方法を記載した病診連携パンフレットを新たに作成・配布する。 ・北九州・筑豊生活圏の歯科診療所に大学のホームページをとおして附属病院の最新情報を提供するとともに、病院、診療所の連携アップを図る(対前年比5%増)。 ・地元北九州市の過疎地・離島などで歯科治療・相談を行うため関係機関と協議する。		1	【平成21年度の実施状況】 ○近隣歯科医師会及び歯科医院向けのリーフレットの改善を行った。 ○附属病院の診療科見直しを行っている関係上、H22年度中に予定されている診療科再編に併せて病診連携パンフレットを作成する準備を北九州・下関・山口病院歯科勤務医会とともに進めている。 ○H22年度中に予定されている診療科再編に併せ、附属病院のHPも大きく変更する予定である。 ○病院総患者数に対して紹介状による患者数は、H20年度と比べわずかであるが増加した(H20年度: 4,214件、H21年度: 4,262件) 患者紹介率 H20年: 40.13% → H21年: 40.31% ○過疎地・離島の歯科治療・相談については、北九州市と非公式に協議を行っている。		B			26
	3		3-1	【平成21年度計画】			【平成21年度の実施状況】					

	<p>【研究成果の地域への発信】</p> <p>①各種イベント及び報告会を利用して地域に向けての研究成果を継続して報告していく。</p> <p>②市民公開講座による研究成果の公表を行う。</p>	<p>【研究成果発表】</p> <p>○新たに設置した「地域貢献推進室」を中心に、地域に向けた研究成果の発表等を企画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点配分した研究を公開するための「重点学術研究報告会」を研究者、医療従事者、一般住民に対し開催し、アンケートにより評価を受ける。 ・行政機関及び地元医師、歯科医師会に働きかけ、地域イベントへ参加し研究成果の発表機会を確保する。 	<p>○「平成20年度学術研究費学長競争枠報告書」を作成し、配付した。(学内外合わせて250冊)</p> <p>○九州歯科学会総会(5月)で22の重点学術研究成果の発表を行った。(参加者:348名、アンケート未実施)</p> <p>○歯工学連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回歯工学連携講演会「歯周医学の視点に立った歯周病研究の現状と今後の展望」(H21年6月九州工業大学:参加者58名) ・第2回歯工学連携講演会「さまざまな口腔粘膜疾患」(H22年1月九州工業大学:参加者50名) <p>○地域住民に向けての研究成果の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演「歯と口の健康」(H21年6月北九州市周望学舎:参加者30名、アンケート未実施) ・講演「咀嚼と健康」(H21年12月九州歯科大学:参加者10名、満足度100%) ・講演「学童期の口の健康と食育」(H21年8月豊前市八尾小学校:参加者50名、アンケート実施) 	B	<p>年度計画を十分に実施している。</p>		27
3-2	<p>【平成21年度計画】</p> <p>【市民公開講座】</p> <p>○学長競争枠応募研究を精査し、市民公開講座に適正である研究成果の発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内開催する歯科公開講座で、参加地域住民のアンケートを集約し、受講者の満足度が50%以上とする。 ・北九州市内4大学法人(九州歯科大学、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学)の「4大学スクラム公開講座」の継続実施し拡充する。(400名以上) 		<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○市民公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演「知ってトクする唾液のひみつ」(九州歯科大学:10/31、参加者70名、満足度80%) ・講演「顕微鏡を使った歯の治療」(小倉歯科医師会館:3/10、参加者48名) <p>○4大学スクラム講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学講演テーマ「あごの関節の不思議」(AIMビル:11/21、満足度74%) ・参加者は104名と昨年度(44名)より大幅に増加した。 	B	<p>年度計画を十分に実施している。</p>	23	28
4	4-1	【平成21年度計画】	【平成21年度の実施状況】				

5	【アジア等を主眼に置いた国際貢献の実施】 ①NGOなどの支援を受け、アジア・アフリカの発展途上国における歯科医療技術援助(口腔外科・保存・予防処置を中心として)に継続して取り組む。 ②留学生交流と海外大学との学術交流推進	【発展途上国に対しての歯科医療技術援助】 ○発展途上国に対して行っている歯科医療技術援助を継続して行う。 ・ネパール、チュニジアにおける活動を継続し、東南アジアでの新たな拠点における歯科医療支援活動の展開を引き続き検討する。 ・本学学生の国際貢献活動の促進を図る。 ・本学国際貢献活動の全容を学内で講演会を開催し、周知させる。	○ネパール歯科医療協会の技術援助隊(23次) ・夏隊 8/15～8/25中村特任教授一行9名、うち本学学生3名 ・冬隊 12/24～1/5中村特任教授一行18名、うち本学学生1名 ○チュニジア歯科医療技術援助隊 2/12～2/20高橋教授他1名(第11次) [報告会] ○第23次ネパール歯科医療協力隊夏隊プロジェクト報告会(九州歯科大学、9/15、参加者9名) ○第11次チュニジア歯科医療技術援助報告会開催(九州歯科大学、3/18、参加者20名) [研修会] ○ネパール歯科医療協力22次隊公式報告書研修会(九州歯科大学、5/25、参加者10名) ○ネパール歯科医療協力23次隊夏隊プロジェクト研修会(九州歯科大学、7/31、参加者10名) ○東南アジアでの新たな活動拠点 ・ベトナム社会主義共和国医療援助および学術調査、研究活動(土生助教)を通じて東南アジアでの活動を開始した。(12/18～12/27)	B	年度計画を十分に実施している。	24 25	29
	4-2	【平成21年度計画】 【留学生交流と海外大学との学術交流推進】 ○現在在籍する留学生をとらして国際交流及び海外大学との学術交流を推進する。 ・学内留学生に対して、イベント等の情報提供を行う。 ・学術交流協定締結大学と今後の活動について、意見交換を行う。 ○数値目標 ・外国人留学生数 5名 ・学術交流 2大学	【平成21年度の実施状況】 ○留学生は、学部留学生2名(台湾1名、韓国1名)・大学院留学生3名(台湾2名、中国1名)を受け入れ、「留学生の集い」等のイベントや奨学金の情報提供を行った。 ○中国の同済大学、韓国の延世大学との学術交流協定の継続について審議中である。 ・外国人留学生 5名 ・学術交流大学 2大学	B	年度計画を十分に実施している。	25	30
	5	【平成21年度計画】 ○福岡県民を対象とした、地域住民の健康増進のための健診プログラムを継続して展開する。 ・モデル地区の地域診断を実施し必要な情報を得るとともに最新調査データを分析・評価した項目を広報紙「福岡8020ニュース(No3)」に掲載発行し、啓発活動を行う。 ・予防歯科分野で健診事業、データ集計を引き続き行う。	【平成21年度の実施状況】 ○県内市町村から集めた健診データを分析した結果を「福岡8020ニュース(No3)」に掲載し、関係機関(県内歯科医師会会員等)に配布し、地域住民へ啓発活動を行った。 ○予防歯科分野での健診事業は、みやこ町(206名)と西南女学院(320名)で行っており、データ集計を行っている。 ○H22年3月には、地元住民のための健康講演会に講師派遣した。	B	年度計画を十分に実施している。		31

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

社会貢献に関する特記事項(平成18～20年度)

社会貢献に関する特記事項(平成21年度)

平成21年9月から、大学敷地内及び周辺地域の清掃活動を教職員や学生が参加して実施している。

項目別の状況(年度計画項目)

中期計画		平成21年度計画		ウエイト		計画の実施状況等		自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度	中期	年度	理由			中期	年度
4 業務運営	理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。」 1 運営体制の改善 ①予算や人員の効果的な配分と事務局機能の強化 ②安全管理体制の充実 2 人事の適正化 ①教員個人業績評価の導入 ②任期制の導入											
	【予算や人員の効果的な配分と事務局機能の強化】 ①理事長が中心となって策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員の効果的な配分を実施する。 ②大学全体の自己点検・評価に基づき、必要に応じて教育研究組織の見直しと再編成を行う。 ③事務局機能を強	1-1	【平成21年度計画】 【予算、人員の効果的配分】 ○大学が策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員を費用対効果を考え効率的な配分を実施する。 ・前年の実績を踏まえて、本大学の教育研究目標に従った効率的な予算配分の実施する。 ・学術研究費学長競争枠の予算の一部を若手研究者のための研究費に充て、研究意欲を喚起する。		1	【平成21年度の実施状況】 ○大学の教育目標である歯科医師の育成することを達成する歯科医師国家試験の合格向上のために、「国家試験対策用オンライン試験・自習システム」(国家試験の過去・模擬問題などをCBT形式で回答でき、学生の達成度の把握・成績分析にも利用できる。)を導入した。ソフト購入費7,100千円 ○若手研究者の研究費として、昨年度より学長競争枠予算の10%(3,000千円)を3名に配分した。		B	概ね年度計画を達成できた。			32
		1-2	【平成21年度計画】 【事務局機能の強化】 ○機動的・弾力的な組織運営を行うための事務局体制を検討し、整備する。 ・事務局体制の整備・機能強化を図り、県立三大学の共通課題を前年度に引き続き協議する。 ・決算・会計事務について、年度当初からノウハウ実績を持つ専門業者に業務委託を行う。 ・病院事務について、専門的知識や豊富な経験を有しているスタッフの強化(委託職員の増強)を図ることとし、円滑かつ安定した運営に努める。 ・病院における苦情処理及び診療費未収金の回収のために知識・体験の豊富な人材を嘱託職員として引き続き配置する。 ・病院事務部と事務局の連携を強化し、意志の疎通を図る。		2	【平成21年度の実施状況】 ○県立三大学事務担当者会議(21年度:2回開催)で、各大学の課題である給与・旅費事務の外部委託について協議検討した。 その他事務の省力化等について意見交換した。 ○効率的な事務運営を行うため決算・会計事務の業務委託を実施することで県派遣職員の定数を見直し削減した。 ○業務委託した決算・会計事務が、円滑に執行されて事務処理の短縮と正確性が実証された。併せて時間外の縮減につながることができた。 ○毎月実施している役付会で、病院事務部と大学事務局の情報等の共有を行った。 ○病院事務の強化のため、委託職員を2名増員した。 ○昨年に引き続き病院苦情処理及び診療費未払金回収のための専門嘱託職員を配置した。		B	目標の実行性の確保に努め十分進捗することができた。			33
2		2-1	【平成21年度計画】			【平成21年度の実施状況】						

	<p>【安全管理体制の充実】</p> <p>①学生や教員の体験・実習・災害時等の安全対策を実施する。</p> <p>②ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。</p> <p>③院内感染及び医療事故に関する講習会を開催する。</p>		<p>【安全対策の実施】</p> <p>○全学挙げて、安全対策を実施するとともに、職員の健康対策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全防災委員会で、防災計画等を策定する。 ・防災訓練を実施することで、学内の危機管理意識を向上させる。 ・職員の健康管理維持や家族の団欒形成などの時間を作るため、ノー残業デーの推進を図る。 ・健康管理室の主導で、救命救急に関する講習会を開催する。 	1	<p>○安全防災委員会を設置し、防火防災の取組を協議した。併せて消防法の改正による自衛消防組織を作ることを確認した。</p> <p>○新型インフルエンザ対策として委員会を設置し、発病した場合のマニュアルを作成し、大学内各所にパンフレットを配布し、HPで全職員に注意喚起した。</p> <p>○ノー残業日を推進した結果として、時間外勤務の時間数が減少した。(対前年比900時間減少)</p> <p>○救命救急に関する講義を、体育時間に行った。</p> <p>○解剖棟のホルマリン対策として、実態調査を行い課題を把握した。</p> <p>○防災訓練は、H21年11月11日に実施し、AEDの講習会は、H22年3月24日に実施した。</p>	B	<p>年度計画を概ね実施したうえ、ホルマリン対策と新型インフルエンザなどの計画にない新たな課題についての取組を行った。</p>		34
2		2-2	<p>【平成21年度計画】</p> <p>【事故防止対策の実施】</p> <p>○ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告内容をリスクマネジメント部会及び医療事故予防対策委員会で分析し、結果を職員へ周知する。(毎月1回) ・院内感染部会を、毎月1回開催して感染情報等の事故報告を検討し、職員へ周知するとともに毎月1回の院内巡視を行う。 ・院内感染及び医療事故に関する講習会を2回以上開催する。 ・新入生のオリエンテーションの際に、大麻等の薬物の取扱いと新型インフルエンザの予防について注意喚起する。 	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○事故防止のために、計画どおり委員会を開催し、結果を職員へ周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント部会 毎月:1回 年間12回 ・院内感染部会 毎月:1回 年間12回 ・医療事故予防対策委員会 毎月:1回 年間12回 <p>○院内感染及び医療事故に関する講習会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内巡視は、7診療科7人体制で実施している。 ・講習会 年2回:7月10日、12月7日 <p>○新入生オリエンテーションの際に、大麻・薬物の取扱いについて警察に講話を依頼し周知した。</p> <p>○新型インフルエンザの予防については、全教職員及び学生に対してメール及びチラシを作成し、注意喚起を行った。</p>	B	<p>目標を概ね達成した。</p>		35
3	<p>【教員個人業績評価制度の導入】</p> <p>①教員個人業績評価システムを導入する。</p> <p>②教員給与に個人業績評価を反映させる。</p>		<p>3【平成21年度計画】</p> <p>○教員個人業績評価システムのブラッシュアップに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による大学運営への積極的に参加を促すための制度の評価対象項目を引き続き拡充する。 ・低評価者に対する指導・支援等の対応を充実させる。 	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人・大学に特に貢献した活動を実施した教員に与える特別賞を創設した。 ・個人業績評価が上位か業績が改善した教員に給与を上乗せして支給する制度を継続・改善した。 ・個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導措置を行った。 ・学部長面談において、教授に対して大学運営への積極的参加を促した。 ・個人業績評価による任期制の再任審査の審査基準を全学説明会で公表した。 	B	<p>概ね年度計画を達成した。</p>		36
4	<p>【任期制の導入】</p> <p>①全教員を対象とした任期制を導入する。</p>		<p>4【平成21年度計画】</p> <p>○任期制導入は完了し、月給制7名を残し全教員は任期制に移行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月給制継任教員に対して、期末に任期制同意の意向照会を引き続き実施する。 	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○7名の月給制継任教員に対して根気強く意向照会を行ったが、同意されなかった。しかしながら新たに採用された教員のすべては任期制である。任期制率約94%</p>	B	<p>概ね目標を達成している。</p>	28	37

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

1-2 : 法人の事務に機動的・弾力的に対応できる体制の確立が本学の重点目標である。特に人事、予算、給与等の管理部門の充実と、附属病院の管理運営を司る部門の強化が不可欠となっている。

業務運営に関する特記事項(平成18~20年度)

業務運営に関する特記事項(平成21年度)

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標		「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」																										
5 財務		1 自己収入の増加 ①学生納付金の確保とあり方検討 ②診療報酬の確保 ③施設設備の有効活用等 ④外部研究資金の増収 2 経費の抑制 ①人件費の抑制 ②職員の意識改革、経費の縮減 3 附属病院経営の改善 ①地域医療サービスの向上の推進 ②経営の効率化を推進するためのシステムの構築																										
中期計画		平成21年度計画		ウェイト		計画の実施状況等		自己評価		データ番号	通し番号																	
項目	実施事項			中期	年度			中期	年度	理由		中期	年度															
1	【学生納付金の確保とあり方検討】 ①学生納付金のあり方を検討する。 ②未納金に対する取り組みを強化する。	1	【平成21年度計画】 ○学生納付金の確保のため授業料等未納金に対する取り組みを強化する ・未納者に対して、呼び出し連絡(学内掲示)し、事情を把握したうえで、納付指導を徹底する。 ○数値目標 ・教員・事務局職員で連絡会を作り情報の共有し、督促業務を行い収納率100%をめざし未収金の解消を推進する。		1	【平成21年度の実施状況】 ○景気の低迷が続く現況で、未納者は承認されなかった減免申請者1名とその他2名の3名である。 未納者に対して、粘り強く保護者に督促を行い、納付指導を行った。 その結果、1名については新年度に納入された。 H21年度収納率 99.6%			B	年度計画の目標をほぼ達成できた。	29		38															
2	【診療報酬の確保】 ①患者紹介率の向上を図る。 ②人間ドック、歯科ドックなど検診分野での収入増を図る。	2-1	【平成21年度計画】 【患者紹介率の向上】 ○基本診療料の施設基準で患者紹介率20%以上で実施件数30件以上の条件を満たすため、患者紹介率35%以上を維持する。 ・近隣の医師会及び歯科医師会を訪問し、各会員へ患者紹介の依頼を行う。 ・紹介方法についてホームページを充実させる。 ○数値目標 ・紹介患者数 4,500件 ・診療報酬額 11億 2千万円		1	【平成21年度の実施状況】 ○H21年度実績は、新患者総数:10,573件に対し紹介患者数:4,262件となった。紹介率40.3%(H20年度実績40.1%) ○近隣歯科医師会及び歯科医師向けリーフレットの改善を行った。 ○診療報酬額 11億3,800万円 ○H21年度は、諸般の事情で郵送での依頼となった。 ○ホームページの充実、診療科再編と併せて行うこととなった。			B	年度計画を概ね達成した。			39															
		2-2	【平成21年度計画】 【検診分野での収入増】 ○歯科ドックをPRすることや、人間ドックなど検診分野で1,700千円(年間合計額)の収入を目標とする。 ・人間ドックのほか特定検診その他の検診(科目)事業を増加させる。 ・歯科ドックや歯科検診事業を依頼する企業を増大させる。 ・キャンパス禁煙開始を機に、禁煙外来の設置に取り組む。		1	【平成21年度の実施状況】 ○人間ドックのH21年度実績は、361,200円(H20年度実績:722,715円)、歯科健診のH21年度実績は、925,430円(H20年度実績:828,806円)、大腸がん、前立腺がん、肝炎ウイルス、胃がん健診のH21年度実績は、48,090円(H20年度実績:37,820円)、特定健診のH21年度実績は、409,272円(H20年度実績:210,934円)であり、合計1,744千円であった。 【実施状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H20年</th> <th>H21年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・人間ドック</td> <td>22件</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>・特定健診</td> <td>25件</td> <td>51件</td> </tr> <tr> <td>・北九州市</td> <td>91件</td> <td>115件</td> </tr> <tr> <td>・歯科検診</td> <td>141件</td> <td>143件</td> </tr> </tbody> </table> ○キャンパス内禁煙について敷地内に看板の設置を行い、附属病院内科に禁煙外来を設置した。		H20年	H21年	・人間ドック	22件	11件	・特定健診	25件	51件	・北九州市	91件	115件	・歯科検診	141件	143件			B	年度計画を概ね達成した。			40
	H20年	H21年																										
・人間ドック	22件	11件																										
・特定健診	25件	51件																										
・北九州市	91件	115件																										
・歯科検診	141件	143件																										
3		3	【平成21年度計画】			【平成21年度の実施状況】																						

	<p>【施設整備の有効活用等】</p> <p>①共同研究室、教室等の施設設備を有効活用し収入増を図る。</p> <p>②e-learningによる収入増を図る。</p>	<p>○大学の共同研究室、会議室、講堂棟の施設設備を積極的に宣伝するとともに、他大学、企業等に有料で提供し、有効活用及び収入増を図る。</p> <p>・解剖(実習棟)などの施設設備を利用した外部に対する研修の有料化を引き続き検討する。</p> <p>・動物実験施設を改築し、有効利用ができるように検討する。</p> <p>○リカレント教育をネットワークを利用した有償事業として、「Q-shidaiゼミ」を行う体制を整備する。</p>	1	<p>○各種イベントや市民参加の行事で、交通の利便性の高い本大学の施設の提供・活用をPRした。施設使用料(年間実績額1,240万円)となった。</p> <p>○解剖(実習棟)の施設利用は、21年度作成した規程により順調に収益が上がっている。(17件:1,840千円)</p> <p>○動物実験施設の改築は、予算や種々の問題があるため、実現には時間を要している。</p> <p>○Q-shidaiゼミは、H19年からシステム運用(無償)しているが今年度まで第一期としてコンテンツの充実に努め有償事業に向け準備を進めている。</p> <p>○有料化は、次期中期計画中に実施していく予定である。</p>	B	概ね年度計画を達成している。		41
4	<p>【外部研究資金の増収】</p> <p>研究の活性化のために、科学研究費補助金、各種研究開発事業助成金、企業からの共同研究費、受託研究費、奨学寄附金の獲得増及び知的財産を利用した収入増を図る。</p>	<p>4【平成21年度計画】</p> <p>【外部研究資金等の増加及び知的財産を利用した収入増】</p> <p>○外部研究資金等の増加を目指すとともに、産学連携の視点に立って研究費獲得を推進する。</p> <p>○知的財産を利用した収入増を図る体制を構築する。</p> <p>・北九州産業学術推進機構(北九州TLO)を活用し、特許の申請および運用を促進する。</p> <p>・埋もれている知的財産をいかに活用できるか考えて、重点的に企業との連携に積極的に取り組む。</p> <p>○治験(薬の有効性、安全性を調べる臨床試験)受託の増加を目指す。</p> <p>○数値目標 外部研究資金等収入 1億2千万円</p>	2	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○外部研究費獲得状況結果</p> <p>H21年度実績額 89件 132,883千円 うち企業との連携:共同研究1件 1,500千円、受託研究4件 3,550千円</p> <p>H20年度実績額 84件 163,069千円 うち企業との連携:共同研究2件 2,500千円、受託研究2件 2,050千円</p> <p>○学術振興科学研究費以外に厚生労働省科学研究費を1件獲得した。</p> <p>○北九州TLOを活用した特許申請 1件 取得1件</p> <p>○知的財産使用収入額 H21年度 62千円 H20年度 57千円 一企業との連携なし</p> <p>○治験委託料実績額 H21年度:2件5,126千円 H20年度:1件 6,930千円</p>	B	目標の実効性の確保に努め、十分に達成することができた。	20	42
5	<p>【人件費の抑制】</p> <p>①設置基準を踏まえ、人員配置を見直す。</p> <p>②業務内容や手順を洗い直し、適切に人員を配置する。</p>	<p>5【平成21年度計画】</p> <p>○今年度運営交付金算定上の人件費(退職金を除く)1,869百万円以内の運用に徹する。</p> <p>・教員数については、教員の質維持を厳守しながら新学科創設を念頭に、退職者補充と組織再編を進め、厳しい要員管理を継続する。</p> <p>・事務職員については、増加する業務への円滑処理を優先させ中期的展望に効率化策を検討し、外部パワーの積極登用も含め適正要員配置に努める。</p>	2	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○人件費1,752百万円に抑えることができた。</p> <p>○新学科創設に伴う教員の採用は、1年目に必要なカリキュラムに合わせて無駄のない教員を採用した。</p> <p>○新学科創設のための業務拡大に伴う人員配置を考慮し、増員要求した。</p> <p>○業務内容を精査検討し、時間外勤務手当を抑制できた。(対前年比:370万円減)</p> <p>H21年度 21,719千円 H20年度 25,420千円</p> <p>○会計・決算事務の外部委託を行うとともに、給与・旅費事務のアウトソーシングの手段方法を他大学の事例を参考に検討した。</p>	B	目標の実効性の確保に努め、十分に達成することができた。		43
6		6-1【平成21年度計画】		【平成21年度の実施状況】				

<p>【職員の意識改革、経費の節減】 ①附属病院において、診療科ごとに患者数、収支を把握し、これを職員ひとり一人に周知することにより、経営に関する意識改革を進める。 ②光熱水費、コピー経費、その他の経費の節約を全教員へ周知徹底する。 ③九州工業大学、産業医科大学との学術交流協定に基づき設備を相互活用することにより、設備の有効利用、整備費の削減を図る。</p>	<p>【職員の意識改革】 ○教員、職員すべてに対し、経営に関する意識改革を推進する。 ・役員と班長以上の意見交換会等を通じて、法人職員としてのあり方や意識を醸成する。 ・理事長自らが中期計画、或いは法人職員の心構えなどを全学説明会や新任の教職員のオリエンテーションなどを通じて周知に取組み意識改革に努める。</p>	<p>1</p>	<p>○昨年10月から「九州歯科大学運営会議」を新設し、大学幹部と事務局幹部で、より効果的な運営手法等について協議した。 ○理事長自らが理事会の内容や大学評価結果を説明する全学説明会を開催した。(年間:6回 総参加者578名) ・新任事務職員オリエンテーション4月8日 参加者13名 ・新任教員オリエンテーション4月17日 参加者16名 多くの機会を通して丁寧に説明することで、教職員の意識や取組に変化をもたらし、経費節減の面では、両面コピーがかなりの頻度で実行されるようになり、また昼休みの消灯も徹底されるようになった。</p>	<p>B</p>	<p>目標の実効性の確保に努め、十分達成することができた。</p>		<p>44</p>
	<p>6-2 【平成21年度計画】 【経費の節減】 ○職員のコスト意識向上に努め、経費削減への取組を引き続き進める。 ・今年度は光熱費急騰への対応で、省エネ策を講じる。 ・附属病院においては、急増する診療材料費への対応を、分析して抑制策を継続して行う。 ・法人経費実態を繰り返し全学説明会で示し、教職員の経費に対する認識を高める。 ・機器メンテナンスの更新計画を立て、経費抑制を検討する。</p>	<p>1</p>	<p>【平成21年度の実施状況】 ○光熱水費は、大学・病院全体で省エネに努めた。事務室等の不要な照明の消灯、パソコン等の稼働時間以外のスイッチオフを強く奨励した。省エネ遂行の効果で約16,000千円の減少となった。(冷房費の減) H21年度額 197,189千円 H20年度 213,113千円 ○単価の低い治療材料の導入を図った。 ○法人の経営状況について、全学説明会で示すことにより経費節減の意識と理解を求めた。 ○機器の更新計画を立て実施を行うとしたが、予算等の関係から計画どおりの進捗しなかったが、メンテナンスについては目的積立金を活用しながら対応した。</p>	<p>B</p>	<p>目標の実効性の確保に努め、十分達成することができた。</p>	<p>31</p>	<p>45</p>
<p>7 【地域医療サービスの向上の推進】 ①摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ②歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療・病診連携・病病連携の体制を充実させる。 ③患者ニーズを把握するために、地域住民との懇談会を設置する。 ④ボランティアの受け入れを行う。 ⑤口腔健診業務への参入を図る。</p>	<p>7-1 【平成21年度計画】 【摂食・嚥下リハビリテーションの実施】 ○摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ・一般外来や訪問診療の高齢者に対して、摂食・嚥下リハビリテーションの意識を患者並びに患者家族に説明し、患者満足度の向上に努める。 ・入院患者に対する口腔ケアの指導を積極的に行い、実績数を増加する。(目標数値:290件 750,000円) ・嚥下機能診断を的確に診断する機器類を整備する。 ○数値目標 ・患者アンケートによる満足度 70%以上</p>	<p>1</p>	<p>【平成21年度の実施状況】 ○病棟入院患者に対して口腔ケアの指導を積極的に行っており、H21年度実績は延べ492名であった(H20年度実績:275名)→78.9%増加 ○摂食・嚥下リハビリテーションに関する説明文書の配布や、嚥下障害のある場合には、嚥下内視鏡検査の画像などの提示・説明を行い、患者満足度の向上に努めている。 ○摂食機能リハビリテーション科(高齢者歯科)において収入が増加した。H21年度:764,300円(H20年度:728,750円)→4.9%増加(病棟での口腔ケアは、保険点数0) ・患者紹介率 42.1% ○嚥下造影検査に用いる透視装置の画像記録を整備して、デジタル画像で保存可能とした。また嚥下障害の診断に使用する内視鏡の点検整備を行い、ファイバー部の更新をした。 ○患者アンケート(手渡し法)による満足度は、84%であった。(実績数25名)</p>	<p>A</p>	<p>口腔ケア指導において実績数が目標を大幅に向上した。</p>		<p>46</p>
	<p>7-2 【平成21年度計画】 【訪問診療体制の導入】 ○歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療、病診連携の体制を構築する。 ・連携病院数の増加を図る。 ・訪問診療件数の把握と件数(昨年実績381件)の増加を図る。</p>	<p>1</p>	<p>【平成21年度の実施状況】 ○八幡東病院と連携し、訪問診療を定期的に行っている。 ○訪問診療件数H21年度 178件 (H20年度381件) 収益:H21年度 890,320円 (H20年度360,640円)</p>	<p>B</p>	<p>小倉リハビリテーション病院については、21年度から歯科が開設されたため、訪問診療を中止した。1ヶ所になったため、件数は減少したが、少数ずつ訪問できるようになったことで、減少したものの時間が長くなり診療内容の充実で点数は増加した。</p>		<p>47</p>

		7-3	<p>【平成21年度計画】</p> <p>【地域住民との懇談会】</p> <p>○地域住民との懇談会を開催し、患者のニーズを聴取する。</p> <p>・各種講演会等を開催することを契機に、周辺の地域住民から病院への要望や歯の悩みなどを聴取する。</p>	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○附属病院主催で「第1回お口の健康セミナー」を開催し、次年度から定期的に行うこととした。</p> <p>○同窓会との共催、および附属病院主催で2回ロビーコンサートを開催し、コンサート終了後に入院患者や地域住民との懇談を行った。</p> <p>○泉台校区町づくり推進協議会との連携を開始し、理事長が泉台校区自治会との懇談会に出席し、今後の連携方法について検討した。</p>	A	<p>初めて病院主催のセミナーを開催することができたことと、当初1回の計画であったロビーコンサートを2回開催できたことで、年度計画以上に成果を上げた。</p> <p>また、泉台校区町づくり推進協議会との連携を密にし、自治会と懇談会を行った。</p>	48
		7-4	<p>【平成21年度計画】</p> <p>【ボランティアの実施】</p> <p>○教育の一環として実施するため。【削除】</p>		<p>【平成21年度の実施状況】</p>			
		7-5	<p>【平成21年度計画】</p> <p>【健診業務】</p> <p>○歯科健診センターによる口腔健診業務を推進する。</p> <p>・前年度実施分の継続実施に努め、さらに新規開拓を引き続き検討する。</p> <p>・患者アンケートを実施して、教職員の対応やサービスが70%以上の満足度を得ることで向上を目指す。</p>	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○みやこ町(206名)、西南女学院(320名)、口腔保健協会(1名)において健診を行った。</p> <p>参考H20年度:みやこ町(174名)、西南女学院(358名)、口腔保健協会(2名)</p> <p>○財団法人日本予防医学研究会と健診業務について検討を行い、県下24地区での健診業務に参入することを計画している。</p> <p>○アンケートの実施結果 満足度72.5%(実績数382名)</p>	B	<p>概ね年度計画を達成している。</p>	49
8	<p>【経営の効率化を推進するためのシステムの構築】</p> <p>①教職員の適正配置を行い、専門外来(口腔外科や歯周病科など)における先進医療を進める。</p> <p>②治療や看護の手順を標準化し、診療の効率化を図るクリティカル・パス(標準的な臨床指針)を導入する。</p> <p>③附属病院の薬剤業務を院外処方にし、薬剤師は入院患者への薬剤情報提供を専門に行い、入院患者へのサービスを図る。</p> <p>④附属病院のホームページを利用した診療に関するサービスを提供する。</p> <p>⑤歯科材料を効率的に流通させるシステムを導入し、材料費の削減を図る。</p>	8-1	<p>【平成21年度計画】</p> <p>【高度先進医療の推進】</p> <p>○ニーズの高い診療科へ教職員を適正配置し、専門外来における先進医療を進める。</p> <p>・平成20年度に2件承認された先進医療の認定取得を更に進める(申請予定 2件)</p> <p>・地域中核病院の治療内容を詳細に掲載する。</p>	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○H20年度に承認された2件の先進医療(歯周病及びインプラント)を進めている。</p> <p>(歯周病) 歯周炎による骨欠損再建手術(インプラント) 植え込みによる義歯作成</p> <p>○新規先進医療申請について、保存科及び義歯科において、申請に向けて症例を収集中である。</p> <p>先進医療に関する詳細は、随時ホームページを更新している。</p>	B	<p>概ね年度計画を達成している。</p>	50
		8-2	<p>【平成21年度計画】</p> <p>【クリティカル・パス】</p> <p>○共通マニュアルを作成実施し、問題点を抽出するとともに改善する。</p>	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○各科共通の九州歯科大学附属病院クリティカルパスが完成し、各診療科に配布した。</p>	B	<p>概ね年度計画を達成した。</p>	51
		8-4	<p>【平成21年度計画】</p> <p>【ホームページの活用】</p> <p>○附属病院のホームページを利用した診療に関する充実した情報サービスの提供を検討する。</p> <p>・見やすく操作しやすいホームページに改善する。</p> <p>・地域中核病院の治療内容を詳細に掲載する。</p>	1	<p>【平成21年度の実施状況】</p> <p>○マイナーチェンジ(各診療科で新しい治療法や材料等の情報提供)は行ってきたが、H22年度中に診療科再編が予定されており、診療科の名称等も変更となるため、それに併せて附属病院のHPも大きく変更する予定である。</p>	B	<p>概ね年度計画を達成している。</p>	52
		8-5	<p>【平成21年度計画】</p>		<p>【平成21年度の実施状況】</p>			

		<p>【効率的な歯科材料流通システムの導入】 ○医科・歯科材料費のムダを省き、効率的な予算執行を継続する。 ・医科・歯科で利用する同種材料についてS. P. D. (医療品等供給管理室) データを詳細に検討し、できる限り安価で上質の材料に一本化を図るとともに、これにより不必要となる材料の購入を中止する。 ・一般保険診療の医療材料費率(医療材料費÷医業収入)を21%と設定する。(当初の病院運営交付金の算定の積算根拠: 17年度決算額が対する比率をさす。)</p>	1	<p>○物品供給管理室(S. P. D)において材料を徹底的に見直し、不必要材料の中止、同種材料の統一化を行っている。 ○診療材料費に占めるSPD比率(H20年度81%→H21年度88%) ○SPDシステムの活用により低い診療材料費に抑えた。 診療材料費の伸び(H20年 8.4%→H21年 △9%) H21年度の一般保険診療の診療材料費比率は25%となった。 ○患者数は微増したが、材料費の支出は減少した(患者数: H20外来133,063人, 入院 11,719人 →H21外来133,389人, 入院 11,777人。 診療材料費実績: H20年度 175,623千円 →H21年度 157,275千円)</p>	B	<p>目標を概ね達成した。</p>	53
--	--	---	---	---	---	-------------------	----

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

- 4 : 平成21年度は、産業の創生につながる研究を展開し、研究費を獲得するよう努める。
- 5 : 教員数と事務職員数を適正管理し、効率的な配置を行う。

財務に関する特記事項(平成18~20年度)

財務に関する特記事項(平成21年度)

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 6 評価		「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。」 1 評価の充実 ①大学評価・個人業績評価の充実と評価結果の公表と反映										
中期計画		平成21年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	理由		中期	年度
	【大学評価・個人業績評価の充実と評価結果の公表・反映】 ①大学運営に関する自己点検・評価を実施するとともに、県評価委員会と学外認証評価機関が行った評価結果を教育研究や大学運営改善に反映させる。 ②教員の個人業績評価を給与に反映させる。	1-1	【平成21年度計画】 【大学自己点検・評価】 ○大学運営については業務評価の自己点検・評価を実施し、平成22年度の大学評価・学位授与機構による外部評価に対して、大学自己評価部会を中心に具体的な準備を進める。 ・大学運営については業務実績自己評価を厳格に実施し、評価結果を次期年度に反映させ大学運営の改善向上につなげる。 ・自己点検・評価結果は学内外に公表する。		1	【平成21年度の実施状況】 ・認証評価委員会と作業部会が中心になって自己点検・評価を継続実施し、平成22年度の大学評価・学位授与機構による外部評価の準備を進め、作業部会が作成した大学機関別大学自己評価書と選択的評価事項に係る自己評価書の校正を認証評価委員会が実施した。 ・自己点検・評価結果を業務実績報告書として大学ホームページの法人情報に掲載した。また、評価結果を大学運営の改善へ繋げている。 ・認証評価への準備を進める過程で判明した本学の長所と欠点をFDで教職員に公表・周知した。 ・アンケート調査(毎年)、部会日より(年6回発行)、部会開催(年12回)を継続実施した。		A	大学機関別大学自己評価書と選択的評価事項に係る自己評価書を計画以上の速さで作成し、平成21年度中に校正まで終了した事、認証評価で分かった本学の長所と欠点をFDで周知した事、自己点検内容に関して大学自己評価部会だよりを用いて冊子配布とウェブサイト公開を年6回実施した事で年度計画を上回って実施している。	32		55
		1-2	【平成21年度計画】 【評価委員会等の評価結果の反映】 ○評価委員会の評価結果は、法人にとり最優先の対応を要する事項として学内発表を行い、速やかに大学運営に係る諸施策への反映を進める。 ・評価結果は受領次第、全学説明会において全教職員にその内容を周知せしめる。 ・改善を求める指摘については、速やかに対応策を講じる。		1	【平成21年度の実施状況】 ・大学評価委員会の業務実績評価結果を直ちに学長が8月27日の全学説明会で結果と対策方法を説明・周知した。 ・業務実績評価結果で評価が低かった社会貢献のリカレント教育・公開講座への対応と、教育評価で問題となった国家試験合格率低下と授業評価対象科目の拡大への対策を直ちに実行した。		B	評価委員会での評価結果に対応した対策を実施するとともに、その施策の結果として国家試験合格率が向上した(新卒者全国7位、既卒者9位)事、公開講座を実施した事、e-learningコンテンツを増やした事、授業評価対象科目を選択科目を含み大幅に増やした事から、年度計画を十分に実施している。	32		56
		1-3	【平成21年度計画】 【個人業績評価の給与への反映】 ○19年度の実施の経験を踏まえ、給与反映方式に改善する。 ・平成20年度に開始した優れた評価結果に報いる本学の支給方式(特別賞を支給)を確立する。		1	【平成21年度の実施状況】 ・法人・大学に特に貢献した活動を実施した教員に与える新設の(平成20年度の特別賞とは異なる)特別賞を創設した。 ・個人業績評価が上位か業績が改善した教員に給与を上乗せして支給する制度を継続・改善した。 ・個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導措置を開始した。 ・個人業績評価による任期制の再任審査の審査基準を全学説明会で公表した。		B	年度計画を着実に実施した。			57

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

評価に関する特記事項(平成18～20年度)

評価に関する特記事項(平成21年度)

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 7 情報公開		情報公開を積極的に推進する。」 1 情報の公開等の推進 ①情報公開に関するガイドラインの作成及び情報公開の積極的な推進 ②個人情報保護の推進											
中期計画		平成21年度計画		ウェイト		計画の実施状況等		自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項			中期	年度	中期	年度	理由			中期	年度	
	【情報公開に関するガイドラインの作成および情報公開の積極的な推進】 ①大学情報の積極的な公開を推進するために、情報公開に関するガイドラインの作成を検討する。また、常に新しい、充実した内容が掲載されるよう、ホームページの充実を図っていく。 ②シラバス、研究成果、入試情報、事業計画、中期計画、組織・運営情報などの各種情報を広く公表する。	1-1	【平成21年度計画】 【ガイドラインの実施】 ○広報・情報委員会を中心に、法人・大学情報の積極的な公開を推進する。 ・広報・情報委員会を中心に本学として公開が望ましい情報を整理し、未公開の情報につき順次公開を進める体制を整える。 ・ホームページを通じた情報公開を拡充する。 ・策定されたガイドラインや運用ルールの学内周知に努める。 ・職員に対して、情報公開に関する研修を実施する。		1	【平成21年度の実施状況】 ○ホームページ内容ごとに事務の担当責任部署を明確にした。統括部署が内容を確認するなど運用管理体制を改善した。その結果、公開が望ましい情報や新着情報の提供を円滑に行うことができた。 [事例]「動物実験に関する自己点検・評価報告書」「H20年度動物実験委員会報告書」 ○平成20年度に策定されたガイドラインや運用ルールを学内専用ホームページに掲載し、引き続き周知に努めた。 ○福岡県県民情報広報課の職員を講師に迎え、職員に対して、情報公開に関する研修を行った。(22年3月、参加者81人)		B	年度計画を十分に実施している。				57
		1-2	【平成21年度計画】 【ホームページの充実】 ○常に内容が新しく、見る者をひきつけるホームページ作りを推進する。 ・英文化、保護者欄などの新設を行い、情報提供の主たる手段として内容を充実する。 ・稼働実態の把握のため運用関連計数の把握・分析を検討する。 ・アクセス件数が前年比増加するような創意工夫する。(アクセス件数 150,000件以上)		1	【平成21年度の実施状況】 ○ホームページ内にある古い情報等は、統括部署が内容の確認を行い、各担当責任部署において最新のものに改めた。 ・ホームページの英文化や保護者欄、一般・企業欄を活用し、日本語圏外の方や学外の方への情報提供を強化した。特に英文化においては、広く大学の情報を発信する上で非常に有効だった。 ・「受験生向け」、「保護者向け」、「一般向け」など対象者別や月単位での集計・分析を行い、その結果を踏まえてページ構成の変更に対応できるようになった。 ・アクセス件数:141,295件(20年度143,124件)		B	概ね年度計画を達成している。				58
2	【個人情報保護の徹底】 福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に努める。そのために、教職員に対し、個人情報保護に関する意識を徹底させる。また、コンピューターからの情報漏洩を防ぐため、インターネット等のセキュリティの強化を図る。	2-1	【平成21年度計画】 【職員に対する啓発活動】 ○福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に継続して努める。 ・職員に対し、個人情報保護に関する研修を実施する。		1	【平成21年度の実施状況】 ○大学内全職員に対して、個人情報及び情報公開の趣旨を徹底するために、福岡県県民情報広報課の職員を講師に迎えて研修会を開催した。(22年3月、参加者81人)		B	年度計画を十分に実施している。				59
		2-2	【平成21年度計画】			【平成21年度の実施状況】							

		<p>【インターネット等のセキュリティの強化】 ○インターネット等のセキュリティを引き続き強化し、法人システムの安全運用を確保する。 ・外からの不正侵入、内からの不正漏洩、内部間の不正データ搾取を防止するため、ハード・ソフト両面に導入したセキュリティ・システムを、引き続き維持強化する。 ・システム運用状況を管理・監視する仕組みを継続検討する。 ・他大学におけるセキュリティ管理状況の情報収集を行う。 ・ヘルプデスクを設置して教職員の苦情等に対応できるようにする。</p>	1	<p>○附属病院・医療情報システムのセキュリティについて内部監査を行い、強化策の参考とした。 ○ネットワークセキュリティ動向や同等施設との比較を行い、監視面の適切な調整を行いつつ、平成18年度導入の機器によるシステム運用を行っている。 ○公立大学協会・情報部会が主催する情報セキュリティセミナーに参加し、情報収集を行った。 ○法人セキュリティポリシー及び情報マネジメントの運用体制について、他大学の情報収集を行った。 ○教職員の苦情等は情報処理室及び情報統括部署にて対応を行った。</p>	B	<p>年度計画を十分に実施している。</p>	60
--	--	---	---	--	---	------------------------	----

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

情報公開に関する特記事項(平成18～20年度)

情報公開に関する特記事項(平成21年度)

項目別の状況(年度計画項目)

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価
		計画	実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	
		費用の部	3,333	3,268	△ 65
		経常費用	3,333	3,230	△ 103
		業務費	3,026	2,926	△ 100
		教育研究経費	405	404	△ 1
		診療経費	667	694	27
		人件費	1,936	1,811	△ 125
		受託研究費等	18	15	△ 3
		一般管理費	305	297	△ 8
		(減価償却費 再掲)	(172)	(176)	4
		財務費用	2	2	0
		雑損	—	4	4
		臨時損失	—	38	2
		収益の部	3,333	3,414	81
		経常収益	3,333	3,354	21
		運営費交付金収益	1,566	1,529	△ 37
		授業料収益	341	332	△ 9
		入学金収益	50	60	10
		検定料収益	8	8	0
		診療収益	1,076	1,134	58
		受託研究等収益	5	17	12
		補助金収益	94	75	△ 19
		寄付金収益	15	12	△ 3
		その他の業務収益	—	0	0
		資産見返運営費交付金等戻	6	7	1
		資産見返補助金戻入	100	99	△ 1
		資産見返寄付金戻入	5	6	1
		資産見返物品受贈額戻入	9	20	11
		財務収益	2	0	△ 2
		雑益	56	46	△ 10
		臨時利益	—	60	60
		純利益	0	145	145

2. 資金計画予算

(百万円)

区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
資金支出	3,243	3,233	△ 10
業務活動による支出	3,160	3,151	△ 9
投資活動による支出	53	51	△ 2
財務活動による支出	30	30	0
資金収入	3,233	3,357	124
業務活動による収入	3,221	3,307	86
運営費交付金による収入	1,566	1,561	△ 5
授業料等による収入	409	408	△ 1
附属病院収入	1,076	1,139	63
受託研究等による収入	20	20	0
補助金による収入	94	83	△ 11
その他収入	56	51	△ 5
預り金等の純増加額	—	42	42
投資活動による収入	2	50	48
財務活動による収入	—	—	—
資金増加額		125	
前年度からの繰越金		619	
翌年度への繰越金		744	

II 短期借入金の限度額	1. 短期借入金の限度額 3億円 2. 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入すること。	該当なし	—
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし	該当なし	—
IV 剰余金の使途	教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。	平成20年度剰余金129,134,762円を目的積立金とした。 目的積立金25,147,500円を取り崩し、以下のとおり教育及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充当した。 活用内容 附属病院における診療機器の更新	—
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし	該当なし	—

項目別の状況(中期目標項目)

中期目標項目	法人 自己評価	評価委員会 意見・コメント等
1教育	【平成21年度】今年度のFDでは教育に関するテーマを数多く設定し、教員の教育手法の改善を求めた。とくに昨年度の歯科医師国家試験の低迷を重く受け止め、学部長をトップとした組織で国家試験結果を分析し、FD活動を展開し、今年度の歯科医師国家試験に臨んだ。一方、今回の分析結果から、初年度から勉学に向かう姿勢を作り上げ、それを維持することが必要不可欠であるということが分かり、1年次生を対象とした宿泊研修(WADSキャンプ)を利用し、目指すべき歯科医師像を描かせるようなグループ学習を行った。	
2研究	【平成21年度】研究業績及び外部資金の獲得に関しては、これまで同様の成果を得ることができた。とくに九州工業大学と歯工学連携大学院間連携で、歯学と工学を融合させる研究体制を構築し、単位互換制度の運用を開始した。	
3社会貢献	【平成21年度】地域社会への貢献については、附属病院の診療科見直しのなかで地域歯科医院との病診連携や附属病院の広報活動を一層充実させる取り組みを開始している。その結果、紹介患者数は昨年と比べわずかではあるが増加した。Q-shidaiゼミは、収録科目を増やし実用化に向けた事業を推進している。研究成果の地域への発信については、市民公開講座、学会や大学祭あるいは報告会を利用し行った。また、国際貢献については、今年度もネパール及びチュニジアへの歯科医療技術援助を引き続き支援した。	
4業務運営	【平成21年度】理事長が中心となって、各組織の人員配置、予算配分を行った。とくに緊急度の高い歯科医師国家試験の合格率アップのために、目的積立金を取り崩して支援システムを導入した。安定した法人の運営のために事務局の一部を外部委託を行うこととした、適材適所の人員を配置し、事務局体制の整備した。医療事故防止対策は十分に行われた。計画どおり実施している。	
5財務	【平成21年度】今年度の財務は、運営交付金(人件費等)枠内で執行できたことや外部資金が順調獲得できたことで安定した執行となった。患者紹介率は、前年度とさほど変化はなかったが、診療報酬が上昇した。検診分野の収入は伸び悩んだが、内科に禁煙外来を設置することができた。摂食・嚥下リハビリテーションに関しては、実施数、収入ともに増加した。訪問診療に関しては、件数は減少したものの収入は大幅に増加した。地域住民との懇談会に関しては、附属病院主催の健康セミナーを開始し、講演後に地域住民との話し合いの場が持たれ、今後継続して開催することとした。健診業務は例年通りであった。ホームページはマイナーチェンジを継続して行った。附属病院のクリティカルパスが完成し、各診療科に配布した。患者増に比較して診療材料費が減少した。計画どおり実施している。	
6評価	【平成21年度】評価の充実については、外部評価である大学評価・学位授与機構による認証評価を平成22年度に控え、大学機関別大学自己評価書と選択的評価事項に係る自己評価書の作成を順調に進めている。評価結果はFDで公表した。公立大学法人評価委員会の評価結果は全学説明会で周知し、特に評価結果が低かった項目については対策を直ちに実施した。業務実績報告書は大学ホームページ法人情報に掲載している。個人業績評価は、給与への反映と評価結果を用いた任期制再任審査基準確立等でさらに充実している。計画通り実施している。	
7情報公開	【平成21年度】情報公開のガイドラインや運用ルールの周知に努め、ホームページの運用管理を強化することによって、積極的に大学情報の公開が行えるようにした。ホームページを充実させ、日本語圏外の方や学外の方への情報提供を強化した。今年度も大学内全職員に対して、個人情報保護や情報公開の研修を行い啓発に努めた。	

全体的な状況

区分	法人	評価委員会
	自己評価	意見・コメント等
業務の実施状況について	<p>前年度の評価委員会評価において社会貢献項目が2の評価を受けたことを踏まえ、内外に対する社会貢献をいかに行えるか組織的に取り組んだ。また歯科医療を取巻くきびしい環境に適合する教育面の充実を第1に取り組み、中期計画目標7項目がバランスよく推進されるよう努めた。</p> <p>本学の使命は「優秀で人間性豊かな歯科医師の育成」であるが、今年度は特に社会からの要請に応じ「確かな臨床力を備えた歯科医師の育成」に重点を置き、基礎実習及び登院実習の内容を充実させた。</p> <p>とくに歯科医師国家試験合格率の低下を回復させるべく積極的に入試対策を進め学力の引上げ努め、学習環境の改善を進めた。これ等変革の鍵は教員の意識改革と優秀な学生確保にあると考え、FDの毎月開催、同僚による授業評価を実施した。</p> <p>又研究面においては、個人業績における研究実績評価により実績重視の姿勢を明確にし、研究費の若手教員枠の設定により裾野の拡大に努め、積極的な外部申請と論文発表の推奨は、学会表彰及び外部資金獲得増加の成果に結びついた。</p>	
財務状況について	<p>財務は、法人化後3年間の経験と知識を生かして引続き慎重な予算運営と厳しい経費抑制を徹底し、概ね安定した運営を行うことが出来た。</p> <p>収入面では、病院収益が年間収入目標を上回る11億3千万円となり順調に推移した。また受託研究費収益は教員の努力であるが予算額を1千2百万円上回る実績を残すことができた。</p> <p>一方支出面では、経費の3分の2を占める人件費(退職金を除く)が、景気低迷の影響で人事委員会勧告で給与の引き下げにより、執行額を大幅に抑制することが出来た結果、最終的には1億4千6百万円の純利益を計上することが出来た。年度中に教育及び診療の質向上並びに組織運営の改善のために2千5百万円の目的積立金を取り崩して充当し当初予算に影響を及ぼさずに実行した。</p> <p>地域の中核病院としての広報活動の展開或いは診療材料費の管理などを通して、今年度は一定の成果を上げることが出来た。</p>	
法人のマネジメントについて	<p>全学説明会及び教職員各層との意見交換会の頻繁な開催を通して、法人の運営に関する法人構成員の理解向上に努めた。</p> <p>今年度は、歯科医師過剰問題で歯学志望学生の急減の対策として優秀な学生の獲得や国家試験合格率引き上げ等に向けた対応が急務であるとの認識を持ち、社会的な要請に的確に応える口腔保健学科の創設を勧奨し「口の総合大学」として発展し続けることを本学の最優先課題として掲げ、特に教育の質向上に重点を置きつつ年度計画全体の達成に取り組んだ。</p> <p>法人全体の運営戦略を担う法人の中核としての事務局の役割の重要性と体制整備への一層の取り組みを、法人として重点課題の一つとして取り組んだが、業務に精通した事務局担当者の知識経験をいかに継承していくか等の問題があり法人化4年経過で課題も顕著となり、十分に期待される体制は未だ整備されない結果に終わった。</p> <p>今後は県派遣職員の処遇について、県学事課と改善に向けた取り組みをさらに協議・検討することとする。</p>	
組織、業務運営等に係る改善事項について		